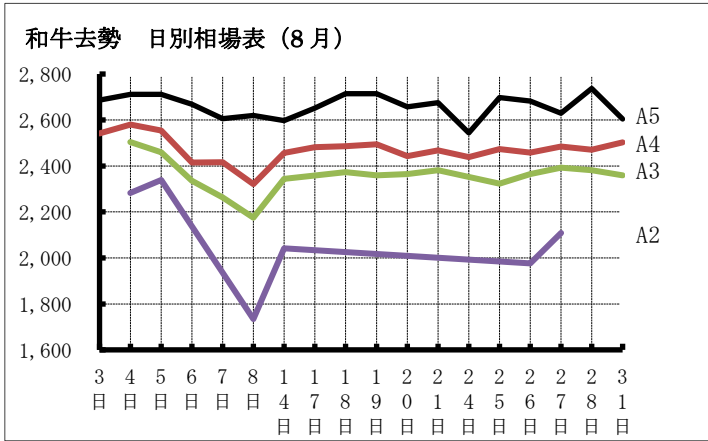


牛肉営業部

＜8 月の相場動向＞

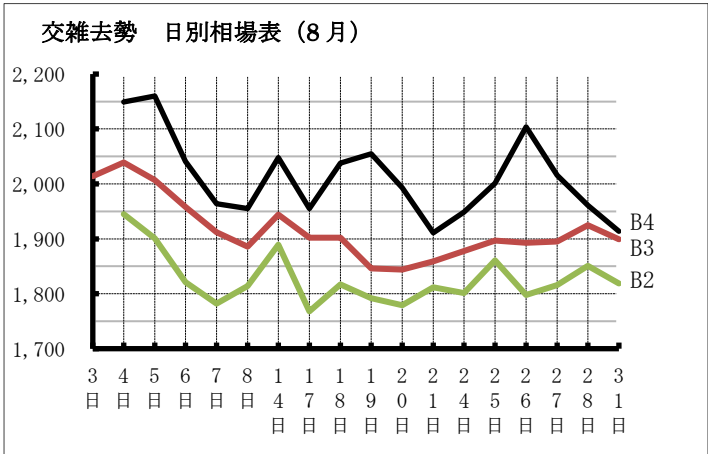
8 月は猛暑が続き、火を使う家庭内調理が敬遠され量販店需要が弱含んだ。外出頻度の低下で外食需要も振るわず、そこに円安による家計負担が重なり、食肉需要は牛肉から豚肉・鶏肉へシフトしている。しかし一方で、東京食肉市場の取扱頭数は和牛去勢 2,565 頭（前年同月比 91.5%）、交雑去勢 620 頭（同 92.5%）と前年を下回り、供給減が相場下支えの一因となった。

和牛は 7 月の牛肉輸出額が約 73 億円（前年同月比 24.0%増）と堅調で、輸出向け高品質枝肉が相場を牽引し、高値を形成した。また、交雑は輸入牛肉および和牛の代替として家庭用・業務用需要が強く、高値傾向で推移した。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,673 円	+319 円	113.6%	+6 円	100.2%
A4	2,473 円	+392 円	118.8%	+7 円	100.3%
A3	2,371 円	+401 円	120.4%	±0 円	100.0%
A2	2,065 円	+328 円	118.9%	+6 円	100.3%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,997 円	+313 円	118.6%	+34 円	101.7%
B3	1,912 円	+336 円	121.3%	+16 円	100.8%
B2	1,824 円	+391 円	127.3%	-8 円	99.6%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	1,270 円	+130 円	111.4%	-52 円	96.1%

＜9 月の牛肉輸入量予測＞

農畜産業振興機構が公表した輸入通関実績によると、7 月の牛肉輸入量は 4 万 3,300t（前年同月比 7.7%減）であった。うちチルドは 1 万 6,600t（同 2.9%減）、フローズンは 2 万 6,700t（同 10.5%減）と、いずれも前年を下回った。

8 月の牛肉輸入数量は前年同月比 8.0%減の 3 万 9,800t（冷凍 12.0%減）と予測している。冷蔵輸入品は、主要国からの輸入量増加が見込まれる一方、通関遅れによる豪州産の減少がこれを相殺し、前年並みの水準となる見通しである。

冷凍輸入品は、中国・韓国での豪州産に対するセーフガード発動により、当該産地からの輸入量は増加が見込まれるものの、米国産の高値継続により当該産地からの輸入が減少するため、全体としては大幅な減少を予測している。

また 9 月の牛肉輸入数量は前年同月比 3.0%減の 3 万 7,300t（チルド 3%増・冷凍 6%減）と予測している。

輸入牛肉通関量		7 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,647	9,208	104.8%
	米国	5,825	6,604	88.2%
	その他	1,187	1,297	92.3%
	合計	16,789	17,109	98.1%
フローズン	豪州	14,367	13,058	110.0%
	米国	8,753	11,019	79.4%
	その他	2,171	5,755	37.7%
	合計	26,652	29,832	89.3%

出典：食肉速報

単位：t

＜9 月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 9 月の出荷予測頭数は、全体で前年同月比 10.2%減の 8 万 1,500 頭で、品種別にみると和牛は 14.8%減の 3 万 8,500 頭、交雑種は 6.5%減の 1 万 9,800 頭、乳用種は 4.4%減の 2 万 2,700 頭と予測している。

また、東京食肉市場の 9 月のと畜頭数は、昨年より営業日が 1 日少ないため、6,950 頭（前年同月比 5.1%減）を予定している。

＜9 月の牛枝肉相場見通し＞

9 月は量販店の棚替えや産地フェアで牛肉需要が喚起される時期である。しかし今年は残暑が続く見込みで売れ筋に変化が出にくく、夏休み需要の反動による消費意欲の減退や節約意識の高まりも重なり、需要回復に向けた取組の効果は限定的とみられる。加えて、9 月は食品の値上げが今年最多の 4,923 品目に及ぶとの報道もあり、牛肉需要の厳しさは依然として続く見通しだ。

一方、和牛・交雑ともに出荷頭数の減少が続く見込みであり、実需の弱さにかかわらず高値が維持される、底堅い相場が予想される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,650～2,850	B4	2,000～2,100
A4	2,550～2,700	B3	1,900～2,000
A3	2,450～2,550	B2	1,800～1,850
A2	1,950～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,250～1,300		
B2	1,200～1,250		

豚肉営業部

2026 年 7 月の全国と畜頭数は 130 万 5,544 頭（前年同月比 1.9%増）と前年を上回った。また、7 月の豚肉通関数量は 9 万 2,841t（前年同月比 12.1%増）で、内訳はチルドが 3 万 8,287 t（同 12.0%増）、フローズンは 5 万 4,554t（同 12.3%増）とそれぞれ前年同月から大きく増加となった。

2025-2026 年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
1	80,664	83,073	22,910	190,177	80,567	74,964
2	73,952	65,442	23,465	186,194	73,310	69,425
3	78,207	76,792	24,895	186,013	76,584	76,973
4	77,021	103,288	23,825	193,172	77,942	96,129
5	69,296	93,571	23,667	210,959	69,305	75,784
6	72,158	86,816	22,550	204,142	73,118	93,633
7	72,197	92,726	22,651	220,402	72,469	88,503
比	103.3%	112.1%	101.1%	100.6%	101.5%	105.0%

出典：農畜産業振興機構

比：最終月の前年同期比

単位：t

7 月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,623	109.4%	デンマーク	5,064	167.6%
カナダ	20,531	104.2%	スペイン	3,065	22.3%
メキシコ	5,132	173.6%	メキシコ	5,143	98.2%
			アメリカ	8,970	136.8%
			カナダ	3,922	84.8%
合計	38,287	112.0%		54,554	112.3%

単位：t

＜8 月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3 日	60,700	689	680	774
4 日	60,800	725	720	962
5 日	57,200	773	766	720
6 日	61,900	742	713	1,027
7 日	59,300	748	722	960
10 日	65,900	771	748	809
平均	60,967/日			875/日

8 月に入り、枝肉相場は 4 日には 700 円台となった。連日の猛暑が続く中、徐々に出荷頭数は減少傾向となったが、末端消費が好調ではないため、相場も落ち着いた展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14 日	—	678	621	1,078
17 日	64,600	613	588	993
18 日	64,700	614	589	988
19 日	62,300	631	604	759
20 日	62,800	634	605	1,026
21 日	62,200	652	624	946
平均	63,320/日			965/日

盆休み明けから出荷頭数は増加基調となり、全国と畜頭数は 6 万頭台で推移した。一方で休み明けの補充手当てはそれほど見られず、相場は 600 円台の軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24 日	63,500	645	619	857
25 日	64,600	634	609	1,006
26 日	59,900	618	595	831
27 日	60,800	604	584	889
28 日	61,200	610	581	933
31 日	63,100	584	559	883
平均	62,183/日			900/日

全国的に厳しい残暑が続き、出荷頭数は低調に推移した。夏休みも終わり、学校給食向けの手当ても見られ始めたが、末端消費は鈍く、相場は 31 日には 600 円を割り込む展開となった。

＜9 月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和 8 年 9 月の肉豚出荷予測では 128 万 2,000 頭（前年同月比 97.6%）と予測している。東京食肉市場の 9 月集荷予定せり頭数は 1 万 7,000 頭、1 日あたりでは約 895 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 9 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 8 万 7,500t（前年同月比 114.8%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 6,300t（同 106.6%）、冷凍輸入量は 5 万 1,200t（同 121.5%）と予測。

冷蔵輸入品は輸出国の国内需要低下と増産を背景に、輸出意欲が高まり、米国、カナダ、メキシコで輸入増が見込まれることから、前年同月をかなりの程度上回り、3 カ月平均でも前年同期をかなり大きく上回る見通し。

冷凍輸入品はスペイン産がアフリカ豚熱による輸入一時停止の影響で減少が見込まれる一方、代替先のブラジル、米国、欧州各国などは増加が見込まれており、前年同月を大幅に上回る見通し。3 カ月平均でも前年同期を大幅に上回るとみられる。

9 月は例年、学校給食の再開による引き合いが強まる。また、シルバーウィークの大型連休があることで行楽需要にも期待が高まるため、手当て買いによって相場は一時的に高値となることが見込まれる。また、春先の相場高騰や夏場の高値を警戒して需要が輸入物へシフトしていたが、出荷頭数が安定する秋口に向け、徐々に引き合いが強まることも予想される。

供給面では残暑の影響により、上旬は出荷頭数が少なくなりそうだが、気温の低下に伴って下旬には順調に増える見込みとなっている。

以上のことから当市場の上物平均価格は 600 円前後、中物平均価格 580 円前後の展開と予測する。

